



# カウンセラーだより

たじま絆保育園 2019. 3月号

保護者の皆さま、こんにちは。先日、このお便りを見てくれているというお話を頂きました。ありがとうございます。少しは楽しみにして頂いている方がいらっしゃるみたいなので、これからもネタ作りに悪戦苦闘しながら頑張っていきます。

さて、今月号は『日本の文化とところ』についてお送りするはずでしたが、新型コロナウイルスの流行に則り、急遽予定を変更しまして、『群集心理・集団心理』についてお送り致します。少しでも参考になれば幸いです。



## 共有地の悲劇

とある牧草地A。そこにはヤギの群れが沢山います。牧草地Aを管理している牧場主Aは、草が少し生えている牧草地の1面にヤギを、そして、草がたくさん生えている2面にはヤギが入れないように管理しています。そして1面に草がなくなりかけた時、ヤギを2面にお引越させます。これを永遠に繰り返していけば、物理的には草が枯渇する事はありません。一方、牧草地Bにも同じ数のヤギがいますが、牧場主Bは少し草が生えている1面と草がたくさん生えている2面ともにヤギを開放しています。どちらもヤギの数と草の量は同じです。違うのは牧場主と管理の仕方だけです。この場合、牧草地Bは題名の通り、ヤギが自ら草を食べつくしてしまい、結果として身を滅ぼす羽目になってしまうのです。現代の人間社会に当てはめると、草はマスク？牧場主は首相？都道府県知事？でしょうか。ヤギの皆さんは私含め、どう行動すれば良いのでしょうか？

## 予言の自己成就

皆さんは、1970年代から1980年代にかけ発生した『オイルショック』をご存じですか？その時は、「オイルがなくなるからトイレトペーパーもなくなるぞ」という吹聴がまことしやかに流れ、これを不安に感じた人々はドラッグストアに長蛇の列を作り、それを見た人がまたトイレトペーパーを買い求め、結果としてトイレトペーパーが市場から消えました。今のコロナと同じですね。つまり、皮肉にも人々は自分の予言を成就するために自ら身を滅ぼしてしまうという悪循環を作り出した、という訳です。人間は、いかに不安に踊らされている存在か、これで分かりますね。そしてここから、いかに人間が我欲に支配されている生き物であるかも分かります。私たちの中にいるエスパー(予言)を打ち倒すすべはあるのでしょうか？皆さんは、どう思いますか？

## 同調性バイアス(バイアス:歪み)

とあるとき、あなたは映画館で映画を観ているとします。そうしたら突然火災報知器が鳴り響き、映画のスクリーンから、煙がモクモクと立ち上がってきました。映画を観ている人は、「お、なんだ、新しい余興か？」と思いながら、“周りの人の行動を”うかがっています。初めの2~3分は、そのまま座席に腰を下ろしていましたが、一人が右前方の非常口から「キヤー」という悲鳴をあげ、逃げ出しました。するとそこにいた人々は一斉に、その右前方の非常口から逃げ出し始めました。当然、出口はふさがってしまい、列をなしている人はパニックに陥り、我先に逃げようと人を押しよけている人さえいます。しかし、出入り口は左前方に、そして非常口はその他に右後方と左後方にもあります。でも、パニックに陥った人は周りが見られなくなり、「みんなと行動した方が安全だ」と近い出入り口を無視して、わざわざ煙が出ているスクリーンの近くから逃げ出すのです。しかし逃げた方が良い時でも初めはみんな座席に腰を下ろしていました。みんなと同じ行動をするのは必ず安全でしょうか？この場合、冷静な行動とは、どのような行動でしょうか？

## 4月のお知らせ

- 1日・8日・22日の水曜に出勤予定です。詳しい時間は長沼(カウンセラー)までお問い合わせください。



4月号は「日本の文化とところ」についてお知らせ致します！